# 私の故郷「広島県坂町」「小学校前の昭和のゆたかな浜」　（神奈川）秦 孝浩

https://www.town.saka.lg.jp/　こちらもご覧ください ⇒ https://youtu.be/4AVUEoqb22k

広島県坂町 PR 動画「ATTACK of smartphone」

瀬戸内海の広島と呉のちょうど中間地点の小さな漁村（坂町）に幼少期を送った頃が懐かしく思い出されます。昭和２５年、小学校に入学し、中学校に入るまで父母と妹たちと過ごしました。放課後や休日の遊びはもっぱら魚釣りや潮干狩。学校の正面には今は埋め立てられたのですが、広い遠浅の砂浜が広がっていました。大潮の時期になると浅蜊や馬刀貝（まてがい）などの他、冬の岩場では青海苔も採れたのです。

小学校の上級の頃には父について、鯵、鱚、黒鯛（チヌ）や眼張（メバル）なとの地魚を釣りに出かけたものです。戦後の復興途上でもあり、一家の生活は楽ではなかったようでしたが、母はそれらの獲物をもとにおかず以上の料理にしてくれたのです。

小学校裏から約数百メートル離れたところ（海田湾沿い）には今は存在しませんが石炭火力発電所があり、使用済みの石炭殻は近くの別の浜の埋め立てに用いられ、東京ドームほどの広場が築かれて格好の運動場となりました。そこで大相撲の地方巡業があり観戦できたのは印象深い思い出です。１９４９年（昭和２４年）頃であったと記憶しています。土俵上の照国と羽黒山は既に横綱であったので感慨一入（ひとしお）でした。

２年前の春、その地を訪ねましたが埋め立て地には倉庫が立ち並び、往時の面影はまったくありませんでした。その一角にありし日の小学校が新築移転していました。校名は坂町立横浜小学校。昔と同じ校名でしたが懐かしいものは何も残ってはいませんでした。２０２１年名古屋場所で復活優勝を遂げた照ノ富士の四股名は７０年以上も前に広島で見た照国（３６代横綱）の一字「照」と現在は親方となっている旭富士（６３代横綱・伊勢ケ浜部屋）の「富士」の二字をいただいてつけられたということを思うとき今昔の感を新たにするのです。

2022.04.03　秦　孝浩（はた　たかひろ）